

## 第3回県民会館の整備のあり方に関する有識者会議 議事録

- 1 日 時 令和元年5月29日(水)  
午後1時30分から午後3時10分まで
- 2 場 所 宮城県行政庁舎4階 庁議室
- 3 出席者  
○出席者(委員): 志賀野桂一委員(座長), 天沼ひかる委員, 片山泰輔委員,  
佐藤淳一委員, 佐藤寿彦委員, 中田千彦委員, 樋渡宏嗣委員  
(事務局): 大森克之環境生活部長, 鈴木文也環境生活部参事兼消費生活・文化課長,  
鎌田光昭消費生活・文化課副参事兼課長補佐(総括担当), 平泉健消費生活・文化課主幹(文化振興班長)  
  
○欠席者: なし
- 4 報 告 第2回有識者会議の議論の整理について
- 5 議 題 県民会館に求められる機能と立地条件について
- 6 配付資料  
資料1 有識者会議の議論の整理・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1  
資料2 移転検討候補地について・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5  
資料3 仙台市音楽ホールとの比較・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8  
参考資料 県有施設再編等の在り方検討懇話会について・・・・・・・・ P. 10
- 7 概 要  
(1) 開 会  
(2) 挨 拶 環境生活部長 大森 克之  
(3) 報 告  
(4) 議 事  
(5) そ の 他  
(6) 閉 会
- 8 議事等内容  
有識者会議は、県民会館の整備のあり方に関する有識者会議設置要領第4条第2

項の規定により、座長が進行することから、座長に選出された志賀野桂一委員が議事進行を行った。

**【座長：志賀野桂一委員】**

それでは次第の「3 報告」に入ります。報告事項は1件、「第2回有識者会議の整理について」です。

それでは、事務局から報告をお願いします。

**【事務局 鈴木消費生活・文化課長】**

それでは、まず、第2回有識者会議の議論の整理について、御説明いたします。

「資料1」を御覧ください。

議論の整理内容でございますが、各項目毎に、第1回の会議でいただきました御意見などは箱囲みの中に残しまして、第2回の会議でいただきました御意見などはその下に追加、という形で整理しております。

第2回会議では、まず、1の「現県民会館の課題に関する意見」では、「楽屋の課題」に関し、追加して御指摘をいただきました。

次に2の(1)ホール需要等では、「県民が積極的に関わるという観点から、小ホールで自作してみることなども刺激になる」といった御意見をいただきました。

次に(2)ホール機能につきましては、今回新たに項目立てを行いました。いただいた御意見としては、「①大ホールは、ポピュラー音楽などを東北の拠点として、ホストできるような機能を備えた貸館中心に徹した方が良い。基礎自治体設置のホールなどのハブになるための機能を、中ホールや小ホールを通じて持つ必要がある」、「②中ホールや小ホールには、自主制作機能を持つスペースを確保する必要がある」、「③舞台設備は大は小を兼ねるといようにしておくこと。舞台裏も含めたバリアフリーを進めるなどが望ましい」、「④新ホールには音響反射板が必要」といったものです。

次に(3)整備の方向性につきましては、「⑦何をして街の発展につなげていくか、という点を描いていくこと」、次のページになりますが、「⑧どのような団体が主催者として展開し、そこに一般市民の方々をどのように絡めていくのか、といった点を発展させる」、「⑨有事の際に、県民を受け入れるような場所、といったハード面、ソフト面も考えた設計を」、「⑩収入を得ながら、持ち出しの事業というような県民全体への還元という形の施設を」、「⑪舞台の広さと同じスペースのリハーサル室を」、「⑬ホールの隣にハコだけの施設があり、芝居、コンベンション、ライブなどを行うほか、避難できるスペースをつくるなど、開放的なコンセプトでつくれば面白い」といった御意見をいただきました。

次に（４）ホールの規模につきましては、「⑥ホールサイズの多様性は大事にすべきである」、「⑦座席数が東北一の規模になってはどうか」、「⑧全国的にも２千席規模になっているが、歳入・歳出がどうなっているかという観点から規模を考えるべき」、「⑨楽屋から袖まで一直線で」といった御意見をいただきました。

次に一つ飛びまして、（６）開放性につきましては、「⑦劇場に入る前に広場があって、建物があって、その中に様々な機能があるのが理想的」、「⑧新しい文化的な刺激をお互いにやりとりしながら、都市という文化を盛り上げていくような機運が出ている」、「⑨単にオープンスペースがあるのではなく、どのような開放性、連続性を獲得するかが課題」といった御意見をいただきました。

次に（７）市町村連携・人材育成につきましては、次のページになりますが、「⑥基礎自治体のホールのハブになる機能」、「⑦教育普及を担える人材とともに、専門人材を育てる機能が必要」、「⑧県内の基礎自治体の施設職員を研修生として受け入れる」といった御意見をいただきました。

次に（８）役割分担につきましては、「③２千人規模のホールが２つあったときに、それぞれが活かされる形を具体的に考えていかなければならない」、「④２千席規模のホールがどのような距離感であればいいのかという点は難しい問題である」といった御意見をいただきました。

次に右側に飛びますが、（１０）これまで培ってきた機能の継承につきましては、「移転した場合に現在地をどのように埋めていくのか、現在地がどのように連動して使われていくのかが重要になる」といった御意見をいただきました。

次に大項目３として起こしました、「県民会館の整備に求められる立地条件に関する意見」についてですが、（１１）現地建替につきましては、⑤から次のページの⑩までの御意見をいただきましたが、全ての委員の皆様から、総論として、「現在の敷地に２千席規模のホールは物理的に難しい」という御意見をいただきました。

これを受けて、（１２）新たな県民会館の立地条件につきましては、「①観光需要と結びついた立地」、「②交通の利便性が高いところ」、「③立地ではなくキャパシティが一番重要」、「④公共交通機関で人を流動させることができる場所」といった御意見をいただきました。

第２回有識者会議の議論の整理についての報告は、以上でございます。

#### 【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。ただいまの報告に対し、確認事項などはございますか。ある方は挙手をお願いします。

特に確認事項などもないようですので、「４ 議事」に移ります。

議事は「県民会館に求められる機能と立地条件について」です。

皆様との意見交換の論点の焦点がぶれないよう、「立地条件」と「仙台市との機能分担」とに分けて説明をいただき、意見交換する形で進めたいと思います。

それでは、まず「県民会館の立地条件について」です。

先程の報告、前回までの議論にもありましたとおり、現在の敷地に2千席規模のホールは難しいという意見で一致したところですが、このような中で、先般5月20日に、県では担当部局が異なりますが、「県有施設再編等の在り方検討懇話会」を立ち上げ、老朽化が著しい県有施設の整備の在り方の検討に着手しました。私もメンバーに入っておりますが、その老朽県有施設には県民会館も含まれておりました。そのため、その検討内容との整合性も図っていく必要があるかと思っております。

その点も含めて事務局から説明をお願いします。

### 【事務局 鈴木消費生活・文化課長】

資料2「移転検討候補地について」の説明の前に、ただいま志賀野座長からお話のありました、震災復興・企画部で立ち上げた「県有施設再編等の在り方検討懇話会」の概要について、御説明申し上げます。

一番最後にある、参考資料を御覧ください。

まず、1の開催趣旨ですが、震災復興計画の終了を見据え、老朽化が進む県関係施設の再編整備や公有地の効果的な活用方策について、所管部局を横断した検討を行う、となっております。

2の構成員につきましては、有識者6名で構成されており、本会議の志賀野座長にも委員として御参画いただいております。

3の主な協議事項につきましては、「老朽化した県関係施設の再編・移転等の整備方針に関する事」、「公有地の効果的な活用方策及び再編・移転等に伴う跡地の利活用に関する事」、「県有施設再編の基本構想の策定に関する事」など4項目が掲げられております。

4のスケジュールは、記載のとおりです。

裏面を御覧ください。5の再編検討対象施設ですが、築年数が古いものから10施設が掲げてあり、県民会館も含まれております。本有識者会議とこの県有施設再編等の在り方検討懇話会との役割分担についてですが、本有識者会議では、施設の機能など県民会館の個別の検討を、懇話会は、検討対象施設の集約化や機能の統合、公有地の効果的な活用方策などを検討していく、という形になります。

6の再編検討候補地の考え方を御覧ください。①から④までの考え方が示されておりますが、③の施設の再編・移転等に合わせて検討というのは、どこかの施設が移転した場合の跡地の活用を想定しているものです。なお、④民有地の買収につきましては、現時点で特段想定しているところがなく、また、財政的な負担も伴いま

すので、まずは①から③までの利用可能な県有地での整備を検討していく、という方向性になっております。

以上を踏まえまして、資料2「移転検討候補地について」を御覧ください。

この候補地は、ただいま御説明申し上げました懇話会で示された候補地のうち、仙台市内の現在更地となっている県有地2か所、同じく仙台市内の用途廃止が予定されている土地2か所、計4か所を本日お示ししております。

まず、1つ目は、現況は山林となっておりますが、利用可能な、宮城野区安養寺3丁目にある裏圃場跡地でございます。面積は約61,380㎡でございますが、最寄りのJR東北本線東仙台駅から徒歩25分の距離にあります。

2つ目は、泉区市名坂明神にある運転免許試験場市名坂庁舎跡地でございます。面積は約29,505㎡でございますが、最寄りの仙台市営地下鉄南北線八乙女駅から徒歩15分の距離にあります。

ページをおめくりください。用途廃止が予定されている土地の1つ目は、宮城野区安養寺3丁目にある現暫定オフサイトセンター、旧消防学校跡地でございます。面積は約37,659㎡でございますが、最寄りのJR東北本線東仙台駅から徒歩25分の距離にあります。

2つ目は、宮城野区宮城野2丁目にある仙台医療センター跡地でございます。面積は約54,530㎡あり、最寄りのJR仙石線宮城野原駅に直結している土地です。

なお、次のページには、移転候補地の全体を示した位置図をつけてございますので、参考にさせていただければと思います。説明は以上でございます。

#### 【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。今示された4つの地区が県有地及び県有地になる予定の土地ということでございまして、本当に今の約3,600㎡から比べるとすごい広さがあって、何でもできるような状況なのかなと一瞬思ったりもしました。この中で色々と議論があらうかと思えますけれども、広域の集客性などで交通アクセスを考えなければいけないということがあります。それから、建築の自由度、周辺施設との連携など、立地場所を選定していく上で確認、補足、あるいは優劣などに関する御意見、御提言について、お一人ずつ伺ってまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

なお、これにつきましては、ここで決定というわけではありませんので、それぞれ専門の立場から御意見などを御自由にいただければと思います。

それでは、はい。

#### 【天沼ひかる委員】

まず、劇場といいますとホールということになりますので、最寄り駅から歩いて

10分以上というのは非常に遠いかなという気がいたします。ただし、例えばこの中でいきますと、仙台医療センター跡地が、これは野球場にも近いところになりますでしょうか。そうしますと、ここが一番理想的な場所かと思えますけれども、駅に人が集中してしまって色々なことが起こるとか、そのようなことがクリアできれば、私、実は自分で全く車を運転しない人間なので、こちらのほうですと皆様、車がかかり生活の中に入っていらっしゃると思えますけれども、やはり駅から歩いてすぐというのは、高齢の方にとっても非常に便利なことですし、どちらかといえば車ということを先に考えないほうが皆様にとって来やすいところかなというのは普通に思います。ですので、例えばこの仙石線の宮城野原駅以外のところ、例えば1駅戻ったり先に行ってから人が乗るということで、人の集中が拡散できるといったことが見えているようであれば、あとは野球の試合があったときに、かなり大勢の方が集中するといった問題もクリアできるのであれば、なるべく仙台駅に近いほうが、外からいらっしゃるお客様も非常に来やすいということで、それを叶えるのは仙台医療センター跡地なのではないかと思えます。

**【座長：志賀野桂一委員】**

ありがとうございました。近くに野球場があるという論点と、車での乗り込みという論点も含めた考えが必要だということ、この2枚目の第2候補地がベターではないかと、こういうお話がありました。

それでは、佐藤淳一委員、お願いいたします。

**【佐藤淳一委員】**

まず、第二種住居地域などで、建物の高さ制限とか、樹木を切っていいのかだめなのかとか、そういった条件が色々あるということをお聞きしたことがあるのですが、この4つの候補地の中でクリアしなければいけないような条件がもしあるのであれば、それを最初に教えていただければと思います。

**【座長：志賀野桂一委員】**

どのような建築制限があるかという点を簡単にご説明いただけますか。

**【事務局 鈴木消費生活・文化課長】**

本日お示ししている資料の真ん中のところに、建築等に係る主な規制というのを書かせていただいております。都市計画／用途地域等で、5ページの最初の宮城野区安養寺3丁目地内であれば、第二種中高層住居専用地域なので、建ぺい率60%、容積率は200%です。現行法上はこのような縛りがありますということで、ここでは整理させていただいております。

**【座長：志賀野桂一委員】**

これ、高さの制限はどのようになっていますか。

**【事務局 鈴木消費生活・文化課長】**

すみません、そこまでは確認しておりません。

**【座長：志賀野桂一委員】**

ホールというのは、ホールの上のフライタワーまで入れますと、大体9階建ての高さに相当します。高さの問題は大変重要だと思いますので、後でお調べいただければと思います。

**【佐藤淳一委員】**

2千人規模となると、結構高さが必要だといった話を聞いたことがありまして、そのあたりが、候補にできる場所なのかどうかという点でちょっと心配だったので、ぜひまた教えていただければと思います。

実際、私は車を運転するので、この候補地のあたりは大体車で動き回っておりますけれども、例えばコンサートが終わってちょっと一杯飲んで帰りたいというときには、やはり公共交通機関があるところのほうが気持ちとしてはすごく楽でありまして、そういった点では、この候補地を見せていただいたときに宮城野原駅から直結というのは大きな魅力であると思っております。ほかのところは、先程のように高さ制限や住宅地であるといったことで、色々と難しい点も多いのではないかと思います。それから、やはり最寄り駅から20分以上歩くというのは、結構覚悟が必要です。名取市文化会館も、15分歩くだけでも遠いというような話がありましたので、アクセス面を考えれば、やはり近いところのほうがいいのではないかと思います。

それで、一つ心配だったのは駐車場をどのようにするのかということですが、楽天の試合があるときは、あのあたりはもう大混雑します。ですので、試合のある日とコンサートが重なったときに、会場内の駐車場がいっぱいになる可能性があるのではないかと思います。今、宮城野区文化センターのところで警備員が立っているということがありますので、そのあたり、少し考えなければいけないことがあるのではないかと思いますけれども、アクセス面はやはり一番いいところがいいような気はします。

以上です。

**【座長：志賀野桂一委員】**

ありがとうございました。今の御意見は、やはり仙台医療センター跡地が良いのではないかとのご意見でございました。ここは近隣商業地域で、建ぺい率も30%ということで、高さは大丈夫なのかなと思います。

それと、面積が約54,530㎡ということは、駐車場が大体1台あたり12㎡くらいだとしても、駐車場だけで入れようとすれば5,000台くらい入ることになりますね。すごいところだなと思います。

中田委員、お願いします。

## 【中田千彦委員】

今挙げられた候補地の中で、私もほかの委員さんと概ね印象が近いと思っているのは、やはり仙台医療センター跡地というのはかなり魅力的なロケーションだと思います。もちろん野球場が近いことによって、同時開催時の人の流れに対する懸念があって、実際に、駅といっても東京のように頻繁に列車が走るような鉄道網ではないので、待てばコンコースがいっぱいになるようなことは容易に想像されます。それと、単純にこの県民会館の移転のプロジェクトにおいて適切な候補地であるかどうかということと同時に、県内外、特に県内のトラフィックデザインのあり方を改めていくということも、一つの視野に入れておくべきではないかと思います。

当然、既存のインフラを最大限に使って、それを候補地の要点にしたとしても、魅力的な施設になればなるほど、そういったところへの負荷がかかってきます。負荷がかかるということは市民生活、県民生活に大きな影響を与えてくるので、流動性を高めていくということは行政としても非常に重要なことだと思います。流動性が高まると、結果的に住み心地が良い、居心地が良いというようにアップグレードされていくという、良い循環ができてくる一つの要因になると思います。そういう意味では、既存のインフラがあることが一つの動機にはなると思いますが、その上で、それをアップグレードしていくための、二の矢、三の矢というのを考えていくことが、戦略的に重要な考え方だと思っていますので、非常にやりがいのあるロケーションではないかなと思っています。

また、様々な機能が分布しているようなゾーンに県民会館が投入されるということは、今の県民会館との意味合いや位置づけは変わるかもしれませんが、新しい県民会館としての意味合いが移植されるようなことがあると思います。どこか知らないところにぽつんとできるというよりは、圧倒的にその相乗効果が期待できるような印象を受けています。

もう一点、この徒歩25分というのは、かなり健脚の方の数字ですよ。実際に、不動産などでもそういう数字を使いますが、大らかな服を着た中高年の方が歩こうと思うと40分～50分かかることもあります。よく野球の試合の応援後に歩いてくる方々もいますが、そういう方々はクールダウンを含めて、試合のことを話しながら歩いてくるようなときがあると思うので、それは陸路を使ってもいいと思います。しかし、その他の候補地は、孤立したところ、道路整備から歩道整備も含めて考えると、かなり難渋しそうなおところだと思います。それを県民会館の次のジェネレーションとしての施設が請け負うような環境整備だと思うと、ちょっとしんどそうだなと思いました。

ただ、ほかの候補地が全くだめなのではなく、周辺環境が恵まれていること、それから既存のインフラがあることによって発展的に県民生活の改善に寄与するような、色々な投資を検討できる場所というのは、今後の意味において重要な論点ではないかと思っています。

以上です。

**【座長：志賀野桂一委員】**

ありがとうございました。中田委員の意見は、交通体系という中での考慮、それから、周辺環境といったことも含めて判断すると、仙台医療センター跡地が一番いいのではないかと、そのほかの候補地については、最寄り駅からの距離という点で困難があるのではないかと、ということでした。

それでは、樋渡委員、お願いします。

**【樋渡宏嗣委員】**

私も、皆さんと同じ意見でございます。この4か所ということであれば、やはり仙台医療センター跡地が一番いいと思われまふ。しかし、皆さんもおっしゃっているとおりに、野球の開催日と重複したときどのようにしていくかということも含めて、きちんと整理していく方向で考えていければ、仙台駅の東口が今すごく発展してきて新しい仙台の顔になってきているので、そういう意味では、県民会館が新しく生まれ変わって運営していくには、非常にいい立地なのではないかなと感じました。簡単ではございますが、以上です。

**【座長：志賀野桂一委員】**

樋渡委員の御意見も、仙台医療センター跡地がよろしいのではないかと、ということでした。

それでは、佐藤寿彦委員、お願いします。

**【佐藤寿彦委員】**

僕の意見は、この候補地の4か所が提示されたら、多分県民の方も仙台医療センター跡地が良いと思うのではないかと、思います。また、ビジネス的な視点から考えてもこの場所だと思ふ。敷地面積も候補地の4か所は、今の県民会館よりも8倍から20倍広い敷地が提示されていますので、高さの問題もクリアできると思ふますし、何でもできるわけですよ。ですから、この4か所だったら、間違いなく仙台医療センター跡地が最適だと思ふます。あとは広い敷地を利用した、魅力ある中身づくりではないかと、思います。

楽天戦の話が出ましたが、新しい県民会館の使用日に2,000人程度増えるだけなのでそんな大きな問題はなく、先ほど中田委員がおっしゃったように、新しい県民会館から仙台駅までクールダウンしながら歩くような、魅力ある仙台駅までの沿線まちづくりも重要だと思ふます。この候補地は、周辺から仙台駅までの楽しいまちづくりにも寄与できるのではないかなと思ふます。

この候補地4か所であれば、何も問題なく仙台医療センター跡地になるのではないかと、というのが僕の感想であります。ただ、仙台市の9か所の候補地が、大体仙台駅から西側に集中していて、新しい県民会館と同じようなキャパシティの施設をつくるという話があります。県がつくる新しい県民会館は、やはり魅力ある、他に色々良い影響が出るような施設を、ぜひつくってほしいというのが僕の意見であります。

**【座長：志賀野桂一委員】**

この4か所の選択肢の中では圧倒的に仙台医療センター跡地であるということ。それから、スポーツとの競合という点も、人数のオーダーが違うという評価になるのではないかと、ということをございました。

それでは、片山委員、お願いします。

**【片山泰輔委員】**

私も、結論的には仙台医療センター跡地がやはり一番いいだろうと思います。駅に近いということもありますが、ただ駅に近いといっても、先ほど中田委員も御指摘のように、鉄道網が東京のようではないということで、阪急電鉄西宮北口駅直結の兵庫県立芸術文化センターのようなことではなくて、むしろ京阪電鉄の駅が近くにあるけれども、公演があるときには大津駅からシャトルバスが出る、びわ湖ホールくらいの距離なのかなというイメージを持ちました。駅との関係以上にこちらがいいのかなと思ったポイントは、住宅地ではなくて、近隣商業地域という位置づけになっている点です。単に公演のあるときだけ行ければ良いということであれば、駐車場があってシャトルバスを出せばそれでいいのですが、やはり県のつくる新しいホールとして、東北地方の一つの拠点だという象徴的なこととか、県内基礎自治体のホールのハブ機能を持つみたいなのを考えると、公演のないときでも人が来るような場である必要があると思います。シャトルバスで行かないと行けないようなところにあるというのは、公演があるときしか行きません。公演がないときでもそこに来て観光客の人が写真を撮って帰るとか、基礎自治体の文化関係の人たちが、ちょっと仙台に来たから寄ってみようかとか、ついでに寄れるような場所であるという意味でいくと、このエリアのほうが望ましいのかなと思います。ですから、単に駅から近いというだけではなくて、商業地域であるということも大きなメリットになるのではないかと、思いました。

**【座長：志賀野桂一委員】**

片山委員も仙台医療センター跡地が、近隣商業地域という用途地域の側面からもよろしいのではないかと、というお話でした。

以上、皆さんから御意見が出ましたけれども、私も一言、言っておきたいと思いますが、この4か所と提示されますと、やはり仙台医療センター跡地しかないかなと私も思います。

あと、論点としましては、やはり文化施設というのは、単独であるというよりは近隣に文化的なものが集約、複合してくるのが、まちづくり的な観点から良いのではないかと思います。そういうことから言うと、仙台サンプラザホールもしくはパトナホール（宮城野区文化センター）、そして演劇専用ということ言えば、10-BOXも、仙台駅東口の中である程度近くにあります。県民会館がそういったことの中の一つという見え方もします。

それから、もう一つは、広域での象徴的な集客性ということを考えても、軌道系に直結するということが常道であろうと思いますので、総合的に判断すると、こん

なに広くてどうしようと感じることがあるかと思えますけれども、仙台医療センター跡地がベストではないかと私も思う次第であります。

それでは、皆様方がそのようなことで、仙台医療センター跡地にしましょう、と言いたいわけですが、先ほど申し上げましたように、ここで決めるわけではございませんので、これから私どもの意見も含めて、県で検討されていくのだろうと思えます。

有識者会議の意見としましては、色々な理由がありましたけれども、総合的に4か所の候補地の中では、仙台医療センター跡地が最適ではないか、という意見として集約をさせていただく、ということによろしいでしょうか。

では、次に、「仙台市との機能分担について」であります。

事務局から説明を願いたいと思えます。この件につきましては、仙台市で整備検討を進めている音楽ホールと新たな県民会館、この2つのホールを建設するとなった場合、それぞれに求められるニーズあるいは機能などの棲み分けをしっかりと整理しておくことが、今後、県民・市民の理解を得るために何よりも欠かすことのできないところであると考えておりますので、よろしく御説明をお願いしたいと思います。

#### 【事務局 鈴木消費生活・文化課長】

資料3「県民会館の整備のあり方に関する検討と仙台市音楽ホール検討との比較」を御覧ください。

この資料は、「1ホール需要等」から次ページの「10立地」までの10項目について、それぞれ、左側に本有識者会議でいただいた御意見を、右側に仙台市音楽ホール検討懇話会報告書に記載されている内容を整理したものです。

各項目毎の仙台市音楽ホール検討懇話会報告書では、まず、「1ホール需要等」につきましては、3つ目のポツでございますが、「クラシック音楽に代表される生の音源の大規模な演奏においても繊細で豊かな響きを有する、優れた音響性能を持つホールが求められているとともに、ポップスなど多様な音楽、オペラ、バレエ、ダンス・舞踊、ミュージカルなど総合舞台芸術、その他映像などを駆使した多様な表現活動などを適切に行うことができるホールが求められている」などといった記述がなされています。

次に、「2ホール機能」につきましては、1つ目のポツに「大ホールは2千席規模の生の音源に対する音響を重視した高機能多機能ホールとする」、2つ目のポツに「可動式音響反射板の導入により、コンサートホール形式と劇場形式に転換ができるホールとする」などといった記述がなされています。

次に、「3整備の方向性」につきましては、「(1)市民に支えられた楽都をさらに高める」ほか3つの設置目的が、また、「①公演・鑑賞・発表機能」ほか6つの機能を持つ、などといった記述がなされています。

次に、「4ホールの規模」につきましては、「大ホール」のほか、「小ホール」、「リハーサル室」などの整備について記述がなされています。

次に、「5広域性」につきましては、「広域、国内外からの来街者、観光客が訪れ

る場」などといった記述がなされています。

ページをおめくりください。「6 開放性」につきましては、「誰もが日常的に集い、憩い、賑わう場」などといった記述がなされています。

次に、「7 地域連携・人材育成」につきましては、1つ目のポツに「施設内外での事業展開，文化芸術によるエリアマネジメント展開により，新たなまちの魅力の形成を図り，まちの回遊性を高める」，4つ目のポツに「専門人材だけではなく，多様な人材の支援・育成を図る」などといった記述がなされています。

次に，一つ飛んで，「9 技術革新対応」につきましては，「ホールは，最新の知見に応じて適切に計画するとともに，表現に係る技術の革新などに対応できる設備を有する」といった記述がなされています。

最後に，「10 立地」につきましては，記載の9か所の候補地の記述がなされています。

説明は以上でございます。

#### 【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。それでは，ただいま整備の方向性，ホールの規模，役割分担などにつきまして，仙台市の音楽ホールと比較する形で事務局から説明がありました。この中で，改めまして仙台市との棲み分け，機能分担ということですか，それから県民会館に求められる機能はどのようなものであるか，小ホールの整備などにつきまして，委員の皆様から御意見を一人ずつ伺えればと思います。

では，片山委員からお願いいたします。

#### 【片山泰輔委員】

機能ということで行くと，まずは仙台市がつくるのがクラシック音楽とか，ハイアート中心なものだとすれば，やはり県としては，ポピュラー音楽や商業的なミュージカルとかができて，東北中から人が集まる拠点をつくる場所に重要性があるのかなと思います。

ただ，もう一つ，再三申し上げておりますように，県という広域自治体の施設ということを見ると，県内の基礎自治体を支援する機能，これは県民会館が高度経済成長期にできたときにはまだなかった劇場法の中で言われていることですが，そういう機能を持つことが，これからつくるのであれば求められると思います。それから，基礎自治体が色々と困っているところ，えずこホールのように自前でかなりできる場所もありますけれども，それはむしろ例外で，多くの基礎自治体設置のホールは，企画能力とか色々なところで苦労されていますから，そういったところを支援する機能というのはやはり県が担うべきです。この点については，仙台市では行わない機能だと思います。

そのときに，どのようなハードが必要かということですが，気をつけなければいけないのは，私もこの間の委員会の中には，中・小ホールを使って人材育成などをすればいいと申し上げましたけれども，中ホールや小ホールをつくるというと，そこを貸館で誰かに借りてもらうというイメージが先行してしまう可能性がある

のではないかと思います。そうすると、結局小ホールを使って何かやりたいというのは、やはり仙台で活動している団体の人たちが希望してくることになるので、あまり最初から小ホール、中ホールとかという議論をするよりは、機能としてどのようなサポートを県内基礎自治体などにしていくかを決めて、後から、そのためにどのようなスペースをつくるかを決めるほうがいいのではないかと思います。極端な話、貸館をしないような研修施設もいいのかもしれないと思います。例えば、県の教育委員会は県内の小学校、中学校の教員のための研修施設を持っていると思いますが、劇場にそのような機能を持たせて、県内の文化施設の人たちが色々と研鑽する場にする。そのような意味では多目的スペースみたいなのが一つあればいいのかもしれないです。ですので、最初に中ホール、小ホールというと、そこを利用したい人が色々なニーズを言ってきて、単なる意見の集約のような形で性格が決まってしまうことにもなりかねないので、あまり先に小ホール、中ホールはどのような規模がよいかみたいな話をしないほうがいいのではないかと思います。結果的にそのような小ホールをつくるということになるかもしれませんが、まずは、県内基礎自治体が何を求めているのかをきちんと調査して、どのようなサポートをしてあげるのが全体の文化の発展のために大事なのか、そこから必要なハードを割り出していくというような発想がいいのかなと思います。

#### 【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございます。片山委員の御意見は、仙台市で今計画しているハイアート系のホールに対して、ポピュラー系というか、もう少し言い方を変えればエンターテインメント系といった方向性であるだろう。しかしながら、広域自治体の長、センターとしての機能はどのようにあるべきかというところで、ハコモノというよりは、どのような機能を持つべきかというところから、その他の施設を考えていくべきという御意見だったと思います。

では、佐藤寿彦委員、お願いします。

#### 【佐藤寿彦委員】

僕の意見は、「県民」の「会館」なので、「県民のための会館」をつくるべきだと思います。要するに、多くの県民から愛され、多くの県民が行ける会館をつくるべきだと思います。仙台市音楽ホールの資料を拝見すると、音楽ホールと書いてあるので、多くの県民、市民の方は音楽に特化したホールをイメージするのではないのでしょうか。音楽と言っても、クラシック音楽の感じがします。

また、資料には、仙台市音楽ホールの敷地面積が27,000㎡から30,000㎡程度と記載されています。多分、立地がいいところなので、そんなに大きなサイズはとれないと思います。先程の移転検討候補地の資料ですと、仙台市が考えているサイズの倍程度の敷地面積がありますので、サイズがとれる分、県民から見て仙台市の音楽ホールとは違うなと思う、県民の会館をぜひつくってほしいと思います。

**【座長：志賀野桂一委員】**

やはり県民の会館を，ということでございます。  
樋渡委員，お願いします。

**【樋渡宏嗣委員】**

仙台市音楽ホールは，例えば，資料3の4の項目，「ホールの規模」として，音楽リハーサル室や舞台芸術リハーサル室などが非常に細かにありますけれども，県民会館もこのような施設を網羅しつつ，常々申し上げているように，人材をどうやって輩出していくことができるのかという面を少し考えてほしいと思います。ホールというものをつくる上において，人材を育てていくためにはどのような規模，また，それが小ホールであるのか，中ホールであるのかということも考えつつ，県でしかできないという県民会館ならではの規模を持ったハードやソフトが充実して，そこからいい人材を輩出して，またそこに戻ってきて，宮城県に様々なお客さんを呼び込めるような，そんな施設になっていけたら，県民会館としては素敵なのかなと思います。

**【座長：志賀野桂一委員】**

ありがとうございました。主にソフト面で，人材育成に適うリハーサル室などの考え方をきちんと持つべきであるというお話でありました。  
それでは，中田委員，お願いします。

**【中田千彦委員】**

仙台市音楽ホールの様々な要件，規模やホール需要等は，県民会館と何が違うのだろうと思いながら読んでいたのですが，もしかしたら，例えば仙台市の場合はやはりオーケストラとの関係が強く，劇場と劇団，野球場と野球チームのような拠点がある活動の一つのパッケージみたいなものがあって，そのためには，楽都仙台として市が頑張っている文化活動の大きなコアの一つとして，オーケストラと音楽ホールが，その組み合わせによって大きな引力のようなものを欲しているのではないかと思います。もしそうだとすれば，それは多面的な文化の取扱として仙台市の取組ではすごく有効なものだと思っています。それに対比して，県民会館がどのような位置づけなのかというと，そういう楽団と音楽ホールや劇場と劇団ということではなくて，もっと汎用性が高い，大らかな，商業的な公演も含めて色々なことができて，色々なものが弾けて，楽しく色々なことが起きるといって，少しサーカスのような感じがしますけれども，そういうアクティビティの中心になるようなものとしての位置づけであると理解をし，そこのソフト面のデザインがうまく機能すると，似たような座席数，似たような部屋数や部屋の配置に見えるこの箇条書きも，随分と違った風景に見えてくるのではないかなと思いました。

ほかの委員の方々の話を聞いて，それは一見，何かぶつかり合うような話題に見えてしまいがちですが，棲み分けということの先には，文化の取組の守備範囲が明確に区分されていて，仙台市はある意味合いを持ってホールを回していきたい，県

はまた違った意味合いでホールを県民に開放していきたい、ということが自ずと描かれていくような気がしています。この対比表を見ていて、何となくそこにはきれいな美しいラインが引けるのではないかなと思ったところです。

**【座長：志賀野桂一委員】**

ありがとうございます。今まで出なかった新しい視点として、オーケストラを附属オーケストラ的に考えて、その拠点施設としてのホールというものと、そうではない、附属の劇団や芸術団を持たないホールというところの区分けで、相当違うのではないかというお話が出ました。これは確かに大きい要素ではないかと思います。それでは、佐藤淳一委員、お願いいたします。

**【佐藤淳一委員】**

私は、今日そういう話になるということで、色々と迷ってこの場に来ました。仙台市の音楽ホールのこと、オペラ協会などに情報が少し入ってきますし、今ここに出典となっている報告書もありますが、その最後のまとめにも、音楽ホールという名前で今まで進んできているけれども、心理的には音楽ホールという音楽専用ホールという印象になってしまうけれども、今お話が出た仙台フィルハーモニー管弦楽団のホームになることも念頭にはあるわけですが、本当は、色々な芸術文化をできるような、多機能に色々なことができることを最初から念頭に置いて建設しようとしているということなので、音楽ホールという言い方をやめたらどうだ、ほかの言い方にしたほうがいいのか、音楽ホールという印象だけが先に行ってしまうのではないかといったことが書いてあります。ですので、仙台市と県で、ひょっとすると方向として同じようなものができ上がってしまうのではないかなと思います。

ただ、仙台市では、音響設備の良いホールを実際につくろうとはしているわけですが、そういったところで、県と市がうまくお互いの棲み分けができて、相乗効果を持てるような施設になるように県と市とでは打ち合わせをしてくださいたいというようなことも報告書に載っています。しかし、実際にどのように棲み分けができるのかなと思っています。今の中田委員のお話を聞いて、そこの部分を少し攻めていけばうまく棲み分けができるのかなとか、色々と自分なりに感じましたけれども、正直なところ、どのようにしていくのが本当に県民にとって市民にとって良いのかというのが、今、何とも言えないような状態でおります。

**【座長：志賀野桂一委員】**

ありがとうございました。また色々と御意見をいただければと思います。佐藤淳一委員は、御存知のようにオペラ協会ということで、オペラというのは非常に総合性がありますので、それこそオーケストラだけというのとは少し違って、いわゆる劇の要素など色々な要素を絡めてホール条件というものを求める立場だと思えます。そういったことで、県で構想している会館と近づいてくる部分もおありなのかなということでお聞きいたしました。

それでは、天沼委員，お願いします。

### 【天沼ひかる委員】

私は外部に住んでいる人間ですので，ちょっと方向違いのお話になってしまったら申し訳ないのですが，棲み分けと，それから，最初からどのような規模の，大・中・小とか，ホールのサイズの話が出ていますけれども，実質，全て計画を立ててしまった後には多少変えられないという部分があるとして，どういった運営をしていくかということはかなり明確にしないとそこが決まってこないというところで，例えば貸館を中心に県民会館はしたほうがいいという御意見もあったと思いますけれども，もし貸館も重点的に劇場を運営していくということになれば，それだけ色々なことを受け入れられるものにしておかないと，館を借りていただけるというか，そのようなことを増やしていくことはできないと思います。

ホールが宮城県の中に既にたくさんあるわけですが，現在，まだここで受け入れることができていない，例えば全国大会もあると思いますし，大規模な公演やオペラもあります。今は少ないですが，招聘のミュージカルみたいなものも多分あると思います。ですので，色々な機能があるものができたことで受け入れるものも増えますし，逆に，新しくここが中心になって，それだけの規模のものをつくるという可能性も出てくると思います。仙台市は政令指定都市ですが，やはり市の限界というのがあると思いますので，棲み分けを最初にはっきりと決めても，例えば，私たち，横須賀市の劇場は25年ですが，できたときには劇場法もありませんでしたので，市のお金をたくさん使って事業を起こして，結果的にまちを豊かにしたと思います。しかし，今，劇場法はできましたけれども，まちがずっと予算的に上り坂でいくわけではありませんので，どこかで縮小しなければいけないというところに来ています。そうすると，また多少方針を変えなければいけないということが起こり得るので，最初の段階で棲み分けをあまり全部見通した形でできないのであれば，ある程度の余裕を持った形で，それがうまく建物の管理としても将来できる形で，受け入れられる範囲というもので決めていくのが一番かなと思います。

本当に，二十何年で，舞台の技術的な部分もかなり大きく短時間で変わってしまったり，それこそ人口減少のようなことは，短時間の中でかなり大きな変化もありますので，いつも私が大は小を兼ねますと申し上げているのは，こういった劇場を中心に使って，例えば実演芸術という言葉も使われると思いますが，そもそもそういったものを実施するのに必要な機能というのがありますから，それは最低限備えていなければいけないというのがありますので，大ホールしかないという形であれば，小さいほうは小ホールと言わずともスタジオスタイルとか，今，色々なホールができていますので，そのようなところを参考にしながら，本当に何をやっていくのかという部分をもう少し明確にすること。あと，全体的な予算の流れで，貸館の収入というものを大幅に活かしていくことが，運営全体に大きく及ぼすような形にするのであれば，そこはかなり多機能にしておかなければならないなと思いました。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。今、この問題の立て方に対する重要な問題提起がありました。つまり、棲み分け論ありきというところから出発しないで、もう少し総合的に考えていいのではないかということです。県民会館は県民会館のあり方としてどうだろうか考える。それともう一つは、今後の環境、社会環境も今まで変わってきたようにこれからも変わり得る、といったところをにらみながらつくっていくべきではないかという、御指摘があったように私は思いました。

私も、座長ではありますけれども、少し申し上げてもよろしいでしょうか。私も色々ここに来る前に考えてきました。一つは、仙台市はどちらかということ、一言で言えば、クラシック音楽の重視型です。ですので、もちろんオーケストラも持っています。そういうところを前提にして、音響重視のホールではないのかなと思いました。それに対して、県民会館は何を重視というよりは、あらゆるエンターテインメントに対応する総合的なホールというような、寄って立つポジションが少し違うなと思います。ですので、自ずとかぶるところは当然出てくるのではないかなと思っています。

そんなことで考えますと、音響ひとつをとっても、音響の考え方はすごく細かく、ベラネクさんという音響学者がいて、それこそ単に反射音、残響音で色々語られていますけれども、それだけではなくて、初期反射の遅れから色々な数値がございまして、それによって、音響がよくてもどういう質の音響なのかという意味ですごく特色が出る、という研究です。世界の主要なホールを全部研究した本があります。それを見ますと、自ずと同じような目的でつくっても相当に特色は出ると思います。

しかしながら、今回の場合は、もう少し区別がついているのではないかと思います。それは、まさに中心になっているのが、あらゆるエンターテインメントに対応すると言ったときから、自ずと劇場型のホールになると思います。仙台市は発想の出発点が、ムジクフェラインに代表されるような、いわゆるシューボックス型から発しているような気がします。今後はそうではないかもしれませんが。

いずれにしても、そういう分け方をした上で考えてみますと、最初のクラシック重視型のホール形状はどうなるかということ、一番分かりやすく言いますと、客席ができるだけフラットで音が響き渡るほうが音はきれいに聞こえるわけですね。そのため、音楽ホール系というのは、大体は客席のスロープが緩やかです。それに対して、劇場型の形状は急階段で、できるだけ視認性がよく、いわゆる台詞がちゃんとクリアに聞こえるべきということで考えます。残響音も少し抑えられたほうがよろしい、というように特性が自ずと出てきて、同じキャパシティでも全然違うホールに実はなるわけです。

そのように考えると、それぞれ着実につくっていくと、結果的に、自ずと違いが出てくるのではないかなと思っています。県民会館は、この考えからするとあらゆるエンターテインメントに対応する劇場型になるのだらうと思います。それは、客席が割と急斜面で、多くのお客様を詰め込めるタイプかなと思っていますところがございます。

音響条件からすれば、色々な説がありますが、19世紀にできたホールは割と残響時間が短くて、馬蹄形のいわゆるオペラハウスのような形のホールというのは、1.2秒程度になっております。19世紀以降につくられたものと、1.6秒や2.1秒に広がってくるわけです。空間容積が広がれば残響時間は長くなるので、この指標だけでは、1千5百席のホールと2千席のホールを比較することはできませんが、一応の目安にはなると思います。ですので、例えば、音響反射、残響時間の反射音の大体の設定というものも、県民会館は1.2秒程度、1.1秒から1.4秒程度の間でおさまります。そして、仙台市ではもう少し、1.4秒から1.8秒程度の残響というような、残響時間の設定の違いでも相当な区別ができるのかなと思っております。

それから、もう一つは、この際モデルになるホールというものはどのようなものなのか、ということをお客さんの間から少し出してみられたほうが、イメージがだんだんはつきりするのかなと思っております。それはどういうことかという、もう既に先行している横須賀の劇場もありますけれども、そのほかにも、今、新しいホールがたくさんできてきて、優れていると言われていたホールがあるわけですね。最近で言えば、例えば日本では、札幌文化芸術劇場hitaruホールが素晴らしいと言われております。あとは、客席は1千8百席で、2千席に少し足りないですけども、まつもと市民芸術館も良いという評判があります。兵庫県立芸術文化センターの大ホールも良いと思います。そのようなところをモデルにしながら、イメージをつくっていくというのがいいのではないかなと思っております。

ただ、私は国内だけではなく、外国の事例も考えています。なぜなら、日本の建築物は老朽化が早くて、色々な設備も更新して、30年、40年でも更新しなければいけないと考えるわけです。しかし、外国のホールは100年くらい平気で保っていきまして、それがいまだにちゃんと使われています。例えば、パリの市立劇場とシャトレ劇場は2つ並んで建っていますけれども、この市立劇場の定期演奏会に呼ばれるということは、世界のアーティストの垂涎の場所になるわけです。そのホールに呼ばれるということがステータスになって、ブランドになっているわけです。そのようなイメージで県民会館を考えることが、できるかもしれません。素晴らしいアーティストが来たいホールになる、そういう構想を持ったらかどうかというのが一つあります。

具体的に言えば、シャトレ劇場は19世紀の末にできて、2千4百席程度のキャパシティで、実際には2千席ちょっとで使っています。これからつくる県民会館は100年ホールだ、くらいのことをまず打ち出して、すぐに老朽化しないで、ちゃんと更新もできて、100年先まで残るホールというものをつくって、東北一、もしくは日本一、それくらいのインパクトを持ったものでつくれば、誰も文句は言わないのではないかとさえ思っています。

敷地が約54,000㎡というので、少し気が大きくなっているかもしれませんが、いずれにしても、今までは現在の県民会館の場所で考えていましたから、少し小さくしか考えようがなかったと思いますけれども、現在の県民会館の場所から解き放たれると、もっと色々な形で考えることができます。私も、天沼委員の意

見に賛成でございまして、棲み分け論というのをあまり詰め過ぎても、まだできていないホールに対して機能分担といっても仕方がないところがありますので、まずは県民に最もふさわしい、そして今までの県民会館にあった欠点を解消して、それを強化して、あらゆるエンターテインメントに機能強化して、きちんと使えるホールというものをまずメインのホールとしてつくと、自ずと人も集まるし、そこに吸引力が出てくるのではないかと思います。

それをあえて貸館中心だというように、少し弱気になる必要はないと思います。と言いますのは、片山委員がおっしゃったようなことを実現しようと思えば、貸館中心ではあるけれども、もう少しそのほかの機能も持たなければいけないということですよね。いわゆる、県内の基礎自治体を支援しなければいけないホールです。そうするとそれなりの機能、エキスパート性を持たなければならない拠点のホールだと考えると、そこは主張していかなければいけません。貸館中心で全部をまとめてしまうと、そういう人の居場所が全然なくなってしまいます。そこは矛盾してしまうので、言い方を工夫する必要があるかなと思いました。

今色々なことを言い合った中で、時間がありますので、もう少し議論していきたいと思います。

#### 【片山泰輔委員】

先程、ホールの中心は貸館などで、いわゆるポピュラーアートというか、志賀野座長はエンタメ系の性格のものとおっしゃいましたけれども、その規模について言及しなかったのが触れておきたいのですが、自治体がつくるホールでは2千席が確かに多いといえば多いのですが、そのような機能を考えたときに、必ずしも2千席である必要はないと思います。もっと多くてもよくて、NHKホールは4千席程度あります。神奈川県民ホールだって2千4百席程度ありますし、東京文化会館も2千4百席程度ありますよね。メトロポリタン歌劇場も3千席以上あるわけですね。ですので、ポピュラー系の公演のときは3千席、4千席のほうが興行的には成功しやすいので、大きいほうがいいわけです。

それから、外来のオペラなどを呼ぶときも、結局、新国立劇場がなぜ使われないのかというと、1千6百席程度しかないから商売にならないから、東京文化会館と神奈川県民ホールと、場合によってはNHKホールを使うということになるわけですよね。ですので、外来の招聘のオペラ、バレエなどを公演するのであれば、むしろ3千席、4千席のほうがビジネスになるということもあり得るので、面積的にも可能なのであれば、かなり大きな規模を想定するというところもあるのかなと思いました。ここはきちんとシミュレーションを試してみる必要があるとは思いますが、そういう考え方も選択肢に入れた上で検討していくのがいいのではないかなと思いました。

#### 【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございます。2千席超と言ったときに、2千10席とかではなくて、2千4百席とか2千5百席とか、今、3千席まで出ましたけれども、もう少し大き

いところで勝負できるかもしれないという御意見でした。

佐藤寿彦委員，どうぞ。

#### 【佐藤寿彦委員】

僕はポピュラーやロックをやっている人間なので，多くの県民に観ていただくために，多くの座席が必要だと思います。観客席が多くても会館の稼働については何の問題もないのですが，やはり建設費用，お金の問題です。しかし，多くの県民が喜ぶものをつくるという事を基本にすると，多くの座席が必要だと思います。新しい県民会館に関しては敷地が大きいので，サイレントマジョリティーを反映するようなものをつくってほしいというのが僕の意見です。

現在，市民会館と県民会館は歩いて5分～6分程度のところに位置しています。両方の会館へ来場した経験がある方は，多分，誰もが市民会館と県民会館はキャパシティの違いだけだろうと感じていると思います。

また，新しい県民会館が建設されて稼働していくのが，2020年代後半だと思います。AIやIoTなどのテクノロジーはかなり進歩しているので，人々の暮らしも相当変化していると思います。

志賀野座長がおっしゃるように，僕も100年建築は希望です。日本中の色々な建物がそうなればいいなとは思いますが，日本の風土，ビジネスモデルの問題でなかなか難しいと思いますので，簡単にアレンジできるもの，簡単に改修ができるようなものをつくってほしいなと思います。

また，我々の業界で言う音の問題についてですが，僕はグランディ21内の体育館で9,000人程度の観客を入れてライブを行っています。多くのお客さんが我々の持ち込んだ音響設備でライブを楽しまれています。また，全国にある県民会館のような会場でライブをする際は，必ず音響装置を持ち込みます。その会場にある音響装置は使いません。そのような現実もあります。もちろん，音は舞台演出や照明などとともに大事な要素です。しかし，催事によって大きく変わるのも現実です。やはり，音の必然性は，会館建設の費用対効果ではないでしょうか。

繰り返しになりますが，皆さんがもう1回考えてほしいのは，2020年代後半にできるものですから，相当の技術革新が生まれていることも踏まえながら，県民が喜ぶものをぜひつくってほしいなというのが僕の意見であります。

#### 【座長：志賀野桂一委員】

だいぶ皆さん調子が出てきましたので，自由に御意見をどうぞ。

#### 【樋渡宏嗣委員】

僕は演劇畑のものですから，2,000人，3,000人，4,000人というのはあまりにもかけ離れた公演になってしまうのですけれども，アーティストがたくさん来て公演するというのもいいのですが，やはり県民の皆さんが自分たちで使えるホールというのも，本当に必要なのではないかなと思います。先ほど小ホール，中ホールは後から考えてもという御意見がありましたけれども，演劇というのは臨

場感がとても大切なので、役者の息づかいが本当に肌で感じられるような空間を、大ホールに兼ね備えてつくっていただければ、そういった空間に接して、県民の方が演劇というものに対してもっと深い御理解をいただいて、今後仙台の演劇界、ひいては日本の演劇界が発展していくようなホールが、宮城県から発信できたらいいかなと思っております。

**【座長：志賀野桂一委員】**

ありがとうございます。演劇というジャンルで言うと、親密性というか、空間のコンパクトさとか、真っ暗になれるとか、何もない空間とか、色々な施設がありますし、そういうところから新しいものが生まれたりするということなので、真逆の世界がもう一つあるわけですね。大きな巨大型のホールと、もっと小さな親密感のある空間が共存するといった要素を、無視することはできないでしょうね。あらゆるエンターテインメントですから、そういったものに対応できる用意を考えていくことにそこも入ってくるのではないのでしょうか。

中田委員，どうぞ。

**【中田千彦委員】**

今、割と風呂敷の大きな話になっていて、それはそれで一つのブレイクストーム的な論点ではすごく健康だなと思ってお話を聞いていました。

それで、今日の参考資料として配られた県有施設の再編等の在り方検討懇話会についての資料の中で、老朽化した施設が県の中にこれだけたくさんあって、それをどうしなければならぬかということが並行して走り始めたという転機のときに、県民会館のことを我々は議論しています。そして、当初は、今の定禅寺通の県民会館が、老朽化というか、不具合を我慢に我慢を重ねて使っているという状況の中で、やはりあそこで育まれている色々な文化的な機能をさらに、可能であれば新築移転をして活性化していったって発展したいということが事の動機でした。それをこういった議論をしていく上で、同等プラスアルファ規模とか、社会的な責任としてどうしてもそれをなぞるしかないところがあって、その上で2千席規模のホールを県有地でと、今、少しずつ発展的に議論が進められているというところだと思います。

今日、重要な話題として、幾つかの候補地があって、その中で仙台医療センター跡地が非常に有望ではないかという議論になっていて、その候補地があまりにも豊かで、もしその候補地を本当に使う可能性があるのであればというところに立脚して、例えば100年規模、もしかしたらもう少し長い規模で、更新をしながら県の文化を活性化していくような、尊い財産をつかっていこうといった論点が見えてきていると思います。そのときに、今のお話の中で、やはり規模はもう少し増やしてもいいのではないか、あるいは、演劇だともう少し近い距離でなければいけないので、共存するためにはどのようなスマートな工夫が考えられるのか、建築的な部分が考えられるのかといったことが見えてきている段階だと思います。

それは、100年規模で県民の文化の拠点となるようなものを構想するのであれば、決して風呂敷が大きくなったわけではなくて、100年かけて、例えば県民に

とって採算がとれる、つまりお金の問題ではなくて、県の人たちが豊かになる結果、100年後にさらに豊かになる結果をもたらすために、どういう投資をするのか、どういう計画をするのかというスケール感でこの話題を捉えるということもあると思います。今、どうしても初期の設定で、割と窮屈な話題からスタートしていますが、それを全うしなければならないという段階の話と、もう少しスケールを大きくして、それは面積とかお金の規模ではなくて、文化的な時間のスケールを大きくして捉えていくことによって、この話題がもしかしたら伸びしろがすごくあって、結果的にはそれが3千席規模の劇場とか、コンプレックスなどに帰着するかもしれませんが、それも一つの可能性としては残されていると、今日皆さんのお話を聞いて率直に思っているところです。

そこにはやはり優れた建築の存在が必要なので、日本は優れた建築物をつくる能力を十分に備えている国だと思っているので、その仕組みが、資源も含めて、そういった100年規模のビジョンを掲げながら、この話題が完了できたらいいなと率直に思っているところです。

**【座長：志賀野桂一委員】**

ありがとうございました。時間の問題というのはそのように考えることができるのですね。なるほどと思ってお聞きました。

佐藤淳一委員、お願いします。

**【佐藤淳一委員】**

先程の、棲み分けを考えるのではなくて、何が一番県民にとっていいのかを考えることは、確かにそのとおりで、そここのところを考えていくことが、結果的に個性も出て一番いい形になるのだろうなと思いました。

ホールの大きさの話がありましたけれども、私も、樋渡委員と同じように、自分が演奏する立場として物を考えるものですから、そうすると、大きくなればなるほど使いにくくなるなと思っています。これは、自分がコンサートを聞きに行く分にはどのぐらい大きくてもいいなとは思いますが、いざ自分が使おうと思ったら、それだけの人を集めたりだとか色々なところで、この仙台市というか宮城県の中で、自分はそこではできなくなってしまうのではないかなという思いも少しよぎったりしました。それは、立場が違くと違った見方になっていくわけですから、県民会館を県民が最もふさわしいと思うホールなのかというところは、多面的にもう少し見ていかないと、自分自身がどこに立って、あるいはほかの人の目線でのいうのを検討していく時間が必要なのかなということのを思いながら、話を聞きました。

**【座長：志賀野桂一委員】**

今日は場所や新しいホールのイメージづくりについて、方向性のある程度示唆していくための話し合いのように思っておりますので、また色々とお考えいただいて、次の会に向けて、より具体化していく方策を考えていければと思っております。

今、佐藤淳一委員のお話は、天沼委員がおっしゃることと真逆のところがあって、

大は小を兼ねないという、言ってみればそういうお話ですよ。やるほうからすると適正な空間や装置などが求められますよという御指摘でありました。そのことも含めて、やはり最適地をどこに置くかというのはこれからの選択になると思いますけれども、天沼委員、もう一つあればお願いします。

### 【天沼ひかる委員】

やはり最初に例えば文化政策みたいなところから細かく色々な事業が出てくると思いますけれども、それを先に立ててホールができて完璧に進むというのは、先程も申し上げたとおり、実はやってみないとどうしても分からないことがたくさんあります。失敗とかではなく、変化していく物事や、県民の方々の考え方とか、ある意味、県がリードすることで起こることもあれば、与えた影響で県民の人たちが起こす、そういった色々なことがあると思います。劇場なりホールなりという場所がそのためにどのように役立つのかとか、そこに関わる、例えば働く人たちというのは、逆に県民の人たちを基本的にはサポートする立場で常にいるということで、ニーズの問題は色々あると思いますが、それなりにスペックの高いものを建てますと、一般の方には非常にコストもかかって使いづらいということが実は出てきますけれども、そういったところは色々な方策でクリアすることができて、財政的に助けるのか、人的なスタッフが助けてあげるのか、いくらでもやり方はあります。ですので、先程皆さんがおっしゃったホールのサイズの問題も、例えばクラシック、オペラなんかでも、すごく小さなオペラであれば当然200人～300人のすごく小さいところでやったほうがいいオペラもあります。それはやはり適切な環境がありますので、そうすると最終的には色々なことができるところで、それが何なのかを見極めて、まずはこうというところを考え抜くのがいいのだらうなと思います。悪い例はここ何十年で多分たくさん出てきていますので、それを吸い上げて研究するというのと、それだけのものを建てたときに、すごく仕事はしなければいけないということはあるので、そういった覚悟というか、ポジティブな気持ちでしっかりつくって運営していくというのが、平たんな言い方ですけども大事だと思います。文化、文化というふうに私も言われてやっていますけれども、やはり意気込みとかそういった部分で、やらされているということでもないですし、盛り上げていくというところがすごく大事なので、それを施設的なことで、じゃあどうするのかという部分を追求すれば解決するのではないかなという気がしています。

### 【座長：志賀野桂一委員】

今日は色々な可能性論というところだろうと思います。これまで非常に小さな枠組みで考えなければいけないと思っていたところを、もう少し開放してみようというようなところで、お話をいただいたように思います。言ってみれば、縮こまった議論ではなくて、もう少し広げるというところで、可能性が色々ある中で、これをどう実現するかというところで、色々な思いがまた出てくる。

オペラを例にとれば、ピアノ一本でできるオペラもあるし、体育館というか、そういうところでないとなかなか成立しないような大がかりな曲、例えば代々木の体

育館でトゥーランドットを見たことがあります。ああいうところで聞くオペラは全然違う世界が成立するとも言えるわけですね。しかし、体育館とホールの間というのはやはり必要なわけです。2千席から3千席というのは、ちょうどそのあたりになるわけですね。体育館は何がいいかという、全部仮設になるわけです。でも、仮設でつくるにはすごくお金がかかります。劇場であればきちんと用意されていて、それなりのコストでできますので、やはり大きなホールの存立意味というのはそれなりにあるような気はします。ただし、今度はどの程度使うのかという現実論になってまいりますので、それがまた維持管理にもはね返るし、それから、どれだけの技術者や職員が張りつかなきゃいけないかといったリアルな問題も出てまいりますので、そういったことを全部重ねあわせて最も今県民に求められているのは何かというのが、ここで問いかけてられているように思います。

本日は、立地、仙台市（計画）との区別、差別化、そして県民会館の将来イメージといったことも論じられてきたように思います。

それでは、事務局にお返ししたいと思います。

（議事終了）

## 9 その他

事務局から次回の会議開催の連絡。委員からの質疑はなかった。

以 上